

港区立赤羽小学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	平仮名、片仮名、漢字、ローマ字などの字形を整えて書く練習を行うとともに、文字数を決めて文章を書く機会を設け、分かりやすく書くための指導を工夫する。
	今年度の取組	各学年の発達段階に応じて文字を繰り返し丁寧に書かせることにより、字形よく書けるようにする。また、習った文字を使って（漢字を含む）文章を書く練習を行う。その際、主語や述語をはっきりとさせ、句読点を打つとともに、読み手に真意が伝わり易くなるよう、短くすっきりとした文章を書くことを心掛けさせる。これらのことを年間を通して繰り返し練習をすることで、文章を書くきまりを理解し、目的意識をもって文章を書けるようにする。
社会	昨年度の課題	地図・各種資料・統計を活用して調べさせ、社会的事象の意味を考えさせる。調べて考えたことを言語活動を通して表現する力を育てる。また、各学年に応じて必要な知識(用語や事象)の定着を図る。
	今年度の取組	地図の見方や、地図記号等、基本的な知識について丁寧に指導するとともに、前学年までの既習事項を次学年でも繰り返し指導し、地図を読めるようにする。また、資料や統計から読み取った事柄をノートに書き出させ、見付けられたことを称賛する。さらに、見付けた事象から気付いたことを文章にして書かせることにより、発表する自信につなげていくようにする。
算数	昨年度の課題	基礎・基本を活用して課題を解決する時間を保証し、考え方のヒントとなる事柄を補足できるようにする。また、考える力の育成を図るために、様々な解き方があることを知らせたり、教え合ったりするために友達の考えを聞くことを重視するとともに、発表・検討の場を十分に確保する。さらに、自主的な学習活動を積極的に取り入れる。
	今年度の取組	算数が苦手な児童には、教師から考え方の中心となる事柄を指導し、自力で解決できた喜びを多く味わわせることにより、学習へ前向きに取り組めるようにする。中位の児童には、集団検討を通して自分の考えを深めたり、広げたりできるように取り組むようにさせる。算数が得意な児童には、自分の考えに根拠をもち表現方法を工夫して説明できるようにする。
理科	昨年度の課題	観察、実験の意義を踏まえ、継続して観察したり、根拠を明確にして予想したり、ある事象とある事象との関連について考えたりする時間を十分に確保し、児童の考えを引き出すとともに発想を豊かにする。
	今年度の取組	児童自ら問題を見出し、予想や仮説を基に観察、実験を行い、結果を整理し考察することで、事象と事象の結び付きについて考える時間を確保する。また、知識として知っていることが本当にそうなのか、自分の目で見て確かめることの大切さを指導する。
音楽	昨年度の課題	階名や記号を覚えたり音程を取ったりすることや、発達段階に応じた楽器の演奏ができるようにしたりするなど、基礎的な技能の定着を図るために、反復練習の時間を確保し、個に応じた指導を充実させ、全員の習得を目指す。
	今年度の取組	I C T機器を活用して一斉学習を中心に歌唱指導や楽器演奏の時間を毎時間取る。楽器演奏は、一斉学習やペア・グループなど少人数での教え合いを取り入れ、練習時間を確保する。また、できるようになったことをスモールステップで見取る。
図工	昨年度の課題	発想を豊かにし、一定の事柄に偏らないようにするため、オリジナリティ溢れる作品のよさを知らせたり、多種多様なアイデアを出していくよさを知らせたりして、絵図や資料、他者の作品などを参考に様々な発想や手法を身に付けられるように時間を掛けて作品作りをしていく。
	今年度の取組	これまでの作品作りが、教師の見本を基に2時間続きの授業で完結する作品が多かったため、作品作りの構想を練る時間がなく、作品が似通ったものになりがちであった。そこで、1つの作品を長時間掛けて作り上げていくことで様々なアイデアを引き出し、途中でデザインの変更も可能であることを知らせ、世界でたった1つのオリジナル作品作りを心掛け、作品に対する愛着心を育てていく。
体育	昨年度の課題	水泳以外の陸上運動（走・跳）・器械運動（固定施設）など自己の課題を克服し、達成していく運動について、各学年の系統的な指導を行うために、赤羽小の「体育の学び方」を全教員が統一して指導するとともに、安全面（服装・決まり・合図）を考慮した指導を全校で統一して行う。
	今年度の取組	校内研究の教科であるため、O J T研修とも関連付けて実技研修会を行い、低学年から高学年までの系統性を考慮した授業実践を行う。また、水泳学習のように基礎基本となる合図を全校で統一し、全ての教師が同様の指導が行えるよう安全に配慮した指導を全校で取り組んでいく。
家庭	昨年度の課題	調理や裁縫など技能面で習得したことが定着するように、技能習得の時間を十分に保障する。
	今年度の取組	週末に、家庭で児童がお茶を入れたり、食事を家族に提供したりすることにより、学習したことを実践する機会をつくるようにする。また2月の展覧会に向けて、毎週1回行われる家庭科の学習に加え、休み時間に遅れている児童を集めて練習したり、玉止め、玉結びなど苦手なことを練習したりする時間を設ける。